

## 広島派遣研修を通して

糸魚川中学校 2年2組 長谷川 紗花

私は、8月5日から7日の広島派遣研修に行ってきました。広島派遣研修では核兵器のない世界にするために、各国首脳による話し合いをしていることが分かったり、胎内被曝者のお話を聞くことができたりして、初めての経験から大切なことを学ぶことができました。

今回の広島派遣研修で特に印象深かったことは、広島平和記念資料館で見た、生々しい被爆の風景と現在の核兵器の危険性です。広島記念資料館では、被爆者の遺品や目を覆いたくなるような被爆の惨状を示す写真などが展示されており、驚きました。核兵器の危険性では、核兵器をなくす呼びかけを始めた頃から、核保有国の数は減りつつありますが、核兵器を保有する国の数は増えていきました。私は、この現状に疑問を持ちました。なぜ、『核兵器をなくそう』と呼び掛けているのに、核兵器を保有する国が増えていくのだろうか。私は、この問題について、核兵器製造の技術が皮肉にも高まったからだと思いました。

広島平和記念資料館以外にも様々なことを勉強しました。研修を通して伝えたいことは平和の大切さです。2日目の平和記念式典で広島県知事がこう問いかけていました。

『万が一、核抑止が破綻した場合、全人類の命、場合によっては地球上全ての生命に対し責任を負えるのですか。』私は、この問いを聞き、全人類の命の責任を、

---

人間が一人きりで追うことはできないと思いました。

平和を壊すことは一瞬だけど、壊した世界平和を取り戻すためにかかる時間は想像以上に長いことを知りました。私にとっての平和は、家族や友達がいつも身近にいてくれることです。家族は、私のことを温かく見守ってくれるし、友達と一緒に遊んだり、勉強したりしてくれます。そんな平和を一瞬でなくしてしまう核兵器は、今もいろいろなところで威嚇に使われてしまっている現実にも、ものすごく恐怖を感じました。

私は、3日間の広島派遣研修で、今までもっていた中学生の立場としての視点だけでなく、被爆者からの視点、実際に戦争で戦っていた人たちからの視点で、原爆や広島資料館・戦艦について知ることができました。この経験から、感じたことや考えたことを多くの人へ伝えていきたいです。

最後に、78年前に広島に落とされた原爆の怖さを決して忘れることなく、二度と同じことを繰り返さないために、私たちのような現代に生きる人々に何ができるかをみんな考えていかなければならないことを広めていきたいです。

---